

TAC・Wセミナー 2024・2025年度合格目標
国家総合職内定者アドバイザーホームルーム

第4回『国家総合職合格への道～歩け、歩け。続けることの大切さ。～』

オンライン 2月9日(金)18:00～19:30
新宿校 2月14日(水)16:30～17:30



本日の予定

1. LAの自己紹介
2. 官庁訪問ESの書き方
3. 各試験区分の勉強スケジュール
4. 官庁訪問の実際(レジュメ②)
5. 今後の告知

無断複製(コピー等)・無断転載等を禁じます。

【HRとは】

私たち国家総合職内定者アドバイザー(LA)が皆さんの勉強と官庁訪問対策をサポートする機会です。内定に近づくための6回のHRを用意しています。

基本的に月一回のペースで新宿校とオンラインにて開催する予定です。内定者スタッフが就活生だった去年の同じ時期に不安に思っていたことや、欲しかった情報などを徹底的に分かりやすくお伝えしたいと思っています。

途中入場・退出は自由です。日ごろの勉強の息抜きに、小さな悩みを解消するために、内定者にしか分からない話を聞きに、お気軽にご参加ください！

LAに寄せられた質問やその回答についてもその都度このHRで紹介したいと思っているので、そちらも併せてご利用ください。

【今後の予定】

第6回HR 最終回

『国家総合職合格への道～？？？～』
—内定までの噂と真実・受験生に贈る言葉—

3/21(木) 16:30～17:30 新宿校

3/26(火) 18:30～19:30 オンライン

(日程・校舎にご注意ください)

【LAの自己紹介】

曾山 稔理

内閣府/慶應義塾大学法学部法律学科/法律区分

【併願先】厚生労働省、衆議院事務局総合職、
参議院法制局総合職、東京都庁、国家一般職、
(横浜市役所、裁判所事務官)

【訪問先】内閣府、厚生労働省

【講座】法律本科生

【専攻】刑法

【得意科目】憲法、行政法

【苦手科目】民法、専門記述

【しておいて良かったこと】省庁説明会への参加、官庁訪問自主ゼミへの参加(2次試験後に始まります)、TAC内
定者ホームルームへの参加(毎月新宿に行っていました！)

【マイブーム】映像の世紀、光る君へ、反り腰に効くポーズ

【メッセージ】2月ですね。去年の今頃は何をしていたかなと思って、写真フォルダを見返していました。ど
うやらお菓子やスイーツで自分のご機嫌を取っていたようです。「今日学校行くのしんどいな～」と思っ
たら、学校の近くのスタバでフラペチーノを買ったりしていました。ブラック珈琲＋激甘お菓子の組み合わせ
にもハマってました。適度に自分を甘やかして頑張りましょう！🍩



北 圭佑

デジタル庁/横浜国立大学経済学部経済学科/経済区分

【併願先】人事院

【訪問先】デジタル庁・人事院

【講座】経済本科生

【専攻】財政学

【得意科目】数的処理、経済原論

【苦手科目】社会科学

【しておいてよかったこと】説明会に積極的に参加すること、
官庁訪問自主ゼミ、ランニング

【マイブーム】Ball sort puzzle、すし、免疫アップ

【メッセージ】経済区分のことなら何でも聞いてください！

個人的にデジタル庁の雰囲気は他省庁と比べてかなり自由で上司との距離感が近いということをお伝え
したいです。

質問や相談、何でも気軽にどうぞ！！



高崎 萌寧

外務省/早稲田大学法学部/政治・国際区分

【併願先】農林水産省、民間(コンサル)

【訪問先】外務省、農林水産省

【講座】政治・国際本科生

【専攻】民事訴訟法

【得意科目】文章理解、数的処理

【苦手科目】政治学・国際関係

【しておいて良かったこと】

TACカウンセリング、省庁イベント参加(双方向コミュニケーション可能なもの)、民間就活(自己分析に役立ちます！)

【マイブーム】もえなず

【メッセージ】

TACの勉強スケジュールに則って勉強できていなくて不安だなあって方ぜひ短期型の勉強方法についてご相談ください！

民間就活との両立についてでも何でもお気軽にご相談ください！



吉田 統磨

外務省/早稲田大学法学部/政治・国際区分

【併願先】経済産業省、民間(WEB広告、総合商社、JAXA等)

【訪問先】外務省、経済産業省

【講座】政治・国際本科生

【専攻】国際法

【得意科目】政治学、国際関係、憲法、国際法

【苦手科目】数的処理、自然科学

【しておいて良かったこと】

①採用担当との個別面談・イベントの参加

②自己分析(ほぼ毎日)と面接練習(週4)

【マイブーム】美術鑑賞、歴史の学び直し、旅

【メッセージ】

試験対策をしている間、不安で眠れない日もあれば、解ける問題が増えて嬉しい日もあります。あまり気負いすぎる必要はありませんが、就活が終わった際に「やりきった」と思えるよう、一日一日を大切に過ごしていただければと思います。



高田 萌奈

農林水産省/東京外国語大学言語文化学部/教養区分

【併願先】国土交通省、民間企業(金融)

【訪問先】農林水産省、国土交通省

【講座】1.5年法律本科生

【専攻】イタリア

【得意科目】文章理解、官庁訪問

【苦手科目】数的処理、企画提案

【しておいてよかったこと】省庁イベントへの積極的な参加

【マイブーム】深夜に旅行の予定を立てること

【メッセージ】

皆さんの不安を解消できるよう、自分自身の経験も交えながら、全力でサポートさせていただきます。1対1で内定者カウンセリングも行っておりますので、お気軽にお申込みください！農林水産省にちょっと興味あるよって方、官庁訪問対策なにしか〜と悩んでいる方、最近黙々と勉強しているからなんか雑談がしたい気分かもという方、ぜひ(^^)／



【官庁訪問ESの書き方】

高田の場合

私は農林水産省に入省したくて国家公務員に興味を持った人間なので、国家公務員単体の志望動機があまり言語化できていませんでした。そのため、官庁訪問ESを書くにあたり、まずは国家公務員の志望動機を深めることから始めました。具体的には、まず農林水産省の志望動機を採用担当の方と相談しながらじっくり考えた後に、国家公務員の志望動機を自分なりに抽象化する形で落とし込むという方法をとりました。

以下、そのような方法を経た結果、どんな志望動機で官庁訪問に臨んだかについて紹介します。

【国家公務員の志望動機】

国家公務員を志望する理由(150文字)

暮らしの中で「豊かさ」が実感できる社会を、未来の子どもたちに継承したいという思いで、国家公務員を志望します。価値観が多様化している現代においては、人々が「豊かさ」を実感できる手段として、日々の生活における「選択肢の多さ」が重要であると考えています。

1. したいこと

それぞれの地域性を活かした発展ができる施策。

2. 重要だと思うこと

日常生活のなかで、個々人が主体となって物事を選択できること。個人のもつ選択肢の多さ。

※どの省庁においても国家公務員の志望動機はぶれないように意識しました。2,3日目に訪問した省庁では、なぜその志望順なのかについて聞かれることが多いように思います。国家公務員の志望軸(理想の社会像)は持って話せたほうが説得力があるので、複数省庁を回る人は、話せるようにしておいた方が良いでしょう。

【各省庁の志望動機】

ES志望動機の構成(あくまで高田の場合)

A. なぜ志望するのか(簡潔でありながらも面接官が聞きたくなるように)

↓

B. 尚、現実～

↓

C. 理想の社会に近づけるため、入省後に何をしたいのか

農林水産省を志望する理由と入省してしたいこと(300文字)

日本における「地域性を有する多様な農・食」を守り続けたいと考え、農林水産省を志望します。地方からの上京経験やイタリアでの体験から、日本全体としての「様々な食」を維持するためには、それぞれの地域性ある「農・食」を守り続ける必要があると実感しました。

一方、国内では、地方の衰退や人口減少をはじめとする課題に直面しています。

入省後には、地域資源である「農・食」を活用した他産業との連携や、輸出による販路の拡大を行うことで、地域そのものの魅力や地域性のある食に対する需要をさらに高めたいです。国内各地の生産基盤

をより強固にすることで、「様々な食」を将来世代へ引き継ぎたいです。

1. したいこと

- ・地域資源である「農・食」を活用した他産業との連携
- ・輸出による販路拡大
- ・上記の組合せ

2. 重要だと思うこと

- ・毎日の生活のなかで欠かせない食。様々な食にアクセスできることが日本の良さだと思うので、そのために不可欠な生産基盤を守りたい。
- ・人々の生活環境について。農村や漁村に移住したいと思ったとき、当たり前を選択できるようにしたい。
- ・農林水産業に就くという職の選択肢。

国土交通省の志望動機(400字以内)

国内それぞれの地域において、その特性や需要に応じた「住みやすさ」を実現したいと考え、国土交通省を志望します。地方で生まれ育った経験やイタリアの小さな村に滞在した体験から、各地域を持続可能にするには、地域における「住みやすさ」を追求する必要があると実感しました。

一方、国内では、人口減少や地方の衰退をはじめとする課題に直面しています。

入省後には、地域の特性を活かしたまちづくりやインフラ環境の整備、また、海外の動向にも注目し、訪日インバウンドやインフラの海外展開を行うことで、それぞれの地域における住環境としての魅力向上や地場産業の維持・発展に貢献したいです。国内の各地域における「住みやすさ」を整えることで、人々がプラス要因によって住環境を選択できる社会をつくり、地域の持続可能な発展につなげたいです。

1. したいこと

- ・各地域(どんな地域を想定?)の特性を活かしたまちづくり(国交省は何ができる?)
- ・地方インフラの海外展開
- ・地方に対するインバウンド需要を高める

2. 重要だと思うこと

- ・「人と物の移動」に対して、可能な限り制限が付かないこと
- ・どの地域の居住を選択しても、安全・安心が確保できること。

環境省の志望動機(訪問辞退)

自然環境によってもたらされる「様々な恵み」を未来に継承することで、将来世代が「豊かさ」を実感できる社会を実現したいと考え、環境省を志望します。私は、これまで自然環境から恩恵を享受してきたと実感する一方、その環境を持続可能にするためには、多様な主体が環境問題に対して真摯に取り組む必要があると考えています。

入省後は、環境への配慮と「産業発展」や「地域の活性化」をさらに結びつけることで、日本社会における持続的な発展を実現させたいです。また、環境問題は世界全体で取り組むべきテーマでもあるため、国内を注視するだけでなく諸外国の視座にも目を向けながら、国際協調のなかで問題解決の策を講じたいです。

1. したいこと

- ・脱炭素地域、地域主体で取り組む環境問題
(・環境問題に対する個々の認識を変えること)

2. 重要だと思うこと

- ・日本の様々な自然環境を守ること。特に、人と自然の調和について。
- ・地域の特性を活かした環境施策。それぞれが行いたい施策を自由に考え選択できる。

・環境と産業の両立。産業を行う上で、環境配慮の機運が阻害要因ではなく、ヒントになるような社会が理想。

曾山の場合

ポイント

私が官庁訪問ESを書く上で気を付けたことは、省庁ごとに志望動機を変えないことです。私の場合は、「こういう社会を実現したい」という根本の部分は同じで、そこに対して省庁ごとに異なるアプローチの方法があるというイメージだったため、一貫性を持つことを意識しました。

ESを書くまでに踏んだステップを、以下で紹介します。

①根本の志望動機(内閣府、厚労省共通)

誰もが自分らしく生きられる社会、自分の人生を制限されない社会を目指したい。大学まで進むことができたのは、自分の力というよりも周りの環境のおかげ。ならば、そこまでつけた力を社会や誰かのために使いたいし、もっと言えば、努力以外の要素によって人生が制限されることのない社会を実現したい。→国家公務員という選択肢。

努力以外の要素によって人生が制限されるときって、どういうとき？→経済的困窮(特に、子どもの貧困)、怪我や病気、災害発生時、自分のアイデンティティにかかわること。多岐にわたる。→人生で直面してきたことや、大学で学んだことなどから、興味分野を絞る。→内閣府、厚労省、法務省という選択肢。

②興味分野の深堀り(メモより一部抜粋)

・内閣府:

・男女共同参画→ジェンダーギャップ指数の低さ(政治・経済)。背景には性別役割分業やアンコンシャスバイアス、暴力など。女性優遇ではなく、男女ともに生きやすい社会をつくる。分断を生まない政策。どうやって意識・慣行を変えていくのか？

・少子化→人口が減少し社会機能を維持することができなくなるという文脈で語られる。それも大事な論点だが、子どもを生き育てることを選べない/諦めるという状況が生じていることもまた、問題。働くことも子育ても、両方とも大事な自己実現の機会であり、男女ともに自由に選択/両立できることが大事。

・厚生労働省:

・子どもの貧困→現在と将来に対する二つのアプローチ。前者はNPOによる食糧支援や教育支援。後者は親への職業支援や経済支援。子どもの貧困＝親の貧困。特にひとり親世帯。

・関連して、少子高齢化対策(仕事と育児の両立)、非正規雇用問題。

③実際の志望動機

【内閣府】(国家公務員、特に内閣府を志望する理由)

私は、あらゆる人が、努力ではどうすることもできない要素によって人生を制限されることがなく、自分らしく生きられる社会を実現するために、国家公務員を志望します。この考えは、今までの人生で感じてきたことやボランティアでの経験に基づいています。

特に、子どもの貧困、男女共同参画などの課題に対して、内閣府で省庁横断的に取り組むことで、実現したい社会像に近づくことができると考えています。また、政治との距離が近く、今政府として取り組むべき重要政策や、新たに生まれた政策分野に携わることができることも魅力だと考えているため、内閣府を志望します。

あとは色々な人に見てもらおうと思います。私は自主ゼミのメンバーに添削してもらい、「形になった～」と喜んでいたら、親に形式面でたくさんツッコミをもらいました()

客観的な目は、あればあるだけ良いです◎

北の場合

・デジタル庁

僕の記憶を頼りにどのようにしてESを書き上げたかを記していくので、参考程度にお願いします！

ESを書き始めた時期：二次試験（人事院面接）後

デジタル庁がエントリーシートを公開するのが遅かったので過去のエントリーシートを参考に構成を練っていました。しかし結局提示されたエントリーシートと要求される内容自体は同じだったのですが、文字数が違ったので再度練り直すことになりました…。

ESは官庁訪問自主ゼミを活かして同じ志望者と議論しながら進めることで不安が解消されました。

添削も周りの友人に頼んで行っていました。事前に職員の方と壁打ちしておくのも一つの手です。

プログラミングの経験等、ITに関する能力は人に誇れるほどなかったもので、主に政策理解度で勝負しようと考えました。

以下、実際に僕が書いたエントリーシートの内容とともに解説をしていきます！

①国家公務員を志望した理由（300字程度）

これまで私は、些細なことであっても他者の為になることは積極的に行い、大きなやりがいを感じてきた。官民間問わず多くの人々と関わりを持ち、社会に貢献できる国家公務員に強い魅力を感じる。また大学の地方財政ゼミで箱根町と共同研究を行い、今行政に強く求められていることは、社会情勢の変化に対して柔軟に対応する能力であると学び、柔軟性を高めるためには行政の連携と高い実行力が必要であることも学んだ。国家公務員として私は、現行の政策や制度が今の社会に対して適切かどうか常に疑うこと、そして前例に捉われず自発的に社会課題と向きあう意識を大切にして、行政の実行性を高め、行政間の繋がりを強化していきたい。

【解説】

国家公務員（総合職）でしかできないことの中で自分がやりたいこと、どうしてそれをやるべきなのかやりたいのかを自分の経験を踏まえつつかきました。また②の回答内容との一貫性も意識することで面接時の質問にかなり回答しやすかったように思います。僕の場合、行政の実行力をキーワードにしました。

②デジタル庁を志望した理由（300字程度）

貴庁を志望する理由は、貴庁が行政のデジタル化の司令塔であることそして、政策実行が早いことの2つだ。私は行政の実行性に懸念を抱いている。貴庁が物理的障壁を取り除くことが可能なデジタル化の司令塔として、行政の業務効率改善と的確なデータ収集や整理ができる体制を整えることで、行政の実行性を高めることができる。また他省庁と比べて新規で政策にスピード感と実行力のある貴庁は行政全体の政策実行の追い風となる力が十分にあると感じた。貴庁で私は、積極性とスピード感を大事にすること、そしてデジタル化を目的とするのではなく、政策やシステムが公共に与える価値を第一に考えることを意識して、貴庁そして公共に貢献していきたい。

【解説】

デジタル庁にしかできない政策、他の省庁にはない特徴と自分が持っている課題意識を結びつけてかきました。面接のときの想定質問も同時に考えながら書いたように思います。

③我が国の社会課題を1つあげ、その対応策としてデジタル庁がやるべきことを記入、そのうち入庁後に関わりたいことを記入（600字程度）

我が国の社会課題として現在、労働人口の減少がある。特に行政の職員減少は、一人当たりの業務量を増やすことになり、行政の実行性に影響し、住民の生活基盤に直接関わる喫緊の課題である。そこで職員が減少したとしても、業務の負荷を減らし、行政の実行性を高い水準に保つために貴庁がやるべきことは2つある。1つ目は、業務デジタル化に関するノウハウの蓄積と共有である。自治体の中でDX化の進みにばらつきがある。自治体間の連携を強化し、職員一人当たりの業務の量を減らすために、DX化の進んだ自治体のシステムの共有、そして行政内で標準化されたシステムを複数用意できる体制を整えることで、行政が業務内容や必要に応じた選択できるようにするべきである。また民間と連携、時に海外の自治体のシステムから学習することも必要となるが、システム導入を特定のベンダーに依存しないことも留意しなければならない。2つ目は、デジタル化の永続的なサポートである。システムやガイドラインを行政に提供した後に、問題は必ず発生するという前提で、その都度問題に対応し、ルールやシステムを更新できる体制を整えておく必要がある。また要請に応じるだけでなく、起こりうる問題を自発的に考えて対応していくことも求められる。貴庁で私は、自治体間、省庁間の連携を

高めるためのシ

ステムと政策立案や行政が業務をデジタル化するにあたって障壁となっているルールの見直しなど、行政の無謬性の改善、そして実行性を高められるような業務に関わりたい。

【解説】

ここは特に自分の中でもかなり悩みました。まず自分が関心のある課題をいくつか書き出し、それに対応する自分の意見を考えだす作業を行いました。そこからデジタル庁の政策を見て、その政策に必要なことを自分なりに考え、どのようにして政策に自分が関われるかを書くことを意識しました。

政策に関しては説明会に参加することやホームページの資料に目を通して学んでいました。

④自分自身が興味関心があることについて(300字程度)

私は、今急激に発展が進んでいるAIの機械学習に興味がある。AIに過去の事例を学習させることで施設や設備に異常がないかの点検、情報収集、文書作成など、AIが人に代わって行うことで、人員削減など業務改善上で期待されるメリットが大きい。しかし便利であるが反面、個人情報保護の問題や、芸術の盗作問題、捏造問題が発生している。そこで人々が不利益を被らないようにAIの規制の議論が交わされているが、規制の線引きは非常に難しく、国外との調整も欠かせない。人の生き方を劇的に変化させうるAIの機械学習に対し、利便性をどこまで高められるのか期待があると同時に、起こりうる問題を常に予想しなければならず、私も否応なく影響を受けてしまう分野であり、目が離せない。

【解説】

デジタル庁の業務に関係がありそうな話題を選びました。僕が書いているのは話題といってもどちらかという課題に近い気がします。デジタル庁の職員としてどのようにしてその課題に関われるかを意識して書きました。

⑤長所と短所について(200字程度)

長所はどんなことから楽しさや喜びを見出せることだ。自発的に取り組むことにはもちろん、他者が起点の取り組みにもやりがいを感じ、夢中になれる。しかし、夢中になりすぎて周りが見えなくなってしまう、際限なく取り組んでしまうことが私の短所だ。何かに取り組む時には事前に、時間や項目ごとに反省や修正の機会を設けて、俯瞰的に自分自身を見つめ直すことを心がけている。

【解説】

長所と短所を表裏一体にして書きました。長所の中でも自分が留意してること、短所とどのようにして向き合っているかを書きました。

高崎の場合

志望動機を書く上で気をつけたことは、①誰にでも書けそうなことは極力書かないこと②論理的に矛盾がないようにすることの2点です。

①に関しては、自分の経験や考えたことをなるべく入れながら志望動機を書くようにしました。例えば、「インターンに参加して、いいなと思って志望しました」では同じような経験をした人との差別化を測れないと思ったので、インターン参加で何を感じたかを書くようにして、自分なりの個性を出すようにしました。経験や日本をどうしたいか(成長させたい・安全にしたい・プレゼンスを向上させたい等)はある程度共通してしまいますしそれは仕方のないことです。その中で、なぜ自分はそう思ったのか・なぜ他人任せではなく自分自身が日本の国益に資する仕事につきたいのかには非常に個性が出ていると思っています。なので、その部分を押し出して言語化できるとよい志望動機になると思います。

②に関しては、目を通した際に、流れるように読んでもらえる文を心がけていました。自分の頭の中で論理が出来上がっても、相手に伝えるのは意外と難しいです。論理的に飛躍した点がないようにめっちゃ気を付けていました。

とは言っても、いきなり志望動機を書くのは大変ですよ...

私は、提出する用の志望動機を作る前に、まず自分ってなんで外務省なんだろうというのを整理していました。元々、3月ごろから志望動機をなんとなく書いて、それをTAC担任カウンセリングで壁打ちしていました。

↓
まず職業選択をする上で大切にしたいことを考えました。

私の場合、①自分にとって納得のできる目的を持って働くこと②自分の得意な(好きな)分野で働くことの2点でした。

↓
次にその2点をより具体化させていました。実際に私が作っていたメモが以下の通りなので、よかったら参考にしてみてください！このメモは4年の5月末ごろに作ったものです。実際に省庁に提出した志望動機は、このメモを基に書きました。

3月ごろから書いていた志望動機を基に、1次試験後～2次試験後に外務省・農林水産省の人事の方に壁打ちをさせていただき、一緒に考えてもらいました。(壁打ちをしたときにも、上の2点を大切にしたいということは率直に伝えてました。)

①自分にとって納得のできる目的をもって働くこと

→日本の発展に貢献するという目的。(日本に成長可能性がないという漠然とした閉塞感があると感じてきた。その閉塞感を打ち破って、日本に成長可能性がある認識を広めたいし、日本を成長させたい。)

成長＝キラキラした未来(これは国民によると思う。お金を稼ぐこと・ライフワークバランスをとること・海外への貢献をすること)

国は、こういった可能性を国民に提示していくべきだと思ってる。

日本は今までの自国の生産力(技術力)をあげていくことで発展してきた。ここに国民が限界を感じているからこそ、閉塞感があるのではないか。

(外務省の場合)

対外的な影響力を通して、日本自身も発展していくことができないか。(＝新しい可能性)

具体的には、日本が持つてゐる立場を活かしていきたい。

→中東との和平交渉の仲介(先進国としての立場にしながら友好関係を築いている日本の特性)

→アジアの発展に貢献(文化的に共通している。中国が経済的面でリーダーシップをとる一方で、日本は安定した民主主義体制とか公害への見地、国際関係の築き方とか規範面でのリーダーシップを日本はとることができる)

アメリカにナショナリズム的な空気が広がっていて、中国が経済的な力を強め同時に国際政治での発言力も上がっている。その中で、中国に対する不信感(債務の罠)があったり政治体制に疑問もある。中国とは異なるイデオロギー(いわゆる先進国的価値観)を持っている日本が調整役を担う隙間があると思う！！

（農林水産省の場合）

日本に閉塞感があるのは、人口が減少し少子高齢化が進んでいることがかなり大きい。特に地方での少子高齢化が著しい。自分自身も、地方のじいちゃんばあちゃんしかいない街をみていると大きな不安感に襲われる。地方の人口増加に貢献したい。地方の人口を増加させるためには、どの地方にも共通してある第一次産業を発達させる必要がある。第一次産業を発達させるためには、若者にとって魅力的な第一次産業にしなければいけない。

若者にとっての魅力ってなに？（一番わかりやすいのは、お金！）

稼げる農業にするために、第一次産業の輸出促進に取り組みたい。

②自分の得意な(好きな)分野で働くこと

（外務省の場合）

→お互いの利益が対立しあう中でも、合意を形作っていくこと。

国際法の模擬裁判活動を通して、国同士の権益が対立しあう中で、自分たちの利益も守りながら「法」という共通した規範を形作っているがゆえに、法律であるにも関わらず国家同士の政治的関係や文化の影響を強く受けていて解釈適用に幅がかなりある点が非常に面白いと思った。国際関係に柔軟に対応すると共に、アナーキーな世界になりすぎないように合意を形作っていく必要がありそのバランスをとるためにそのような特徴をもった法があるのだと思った。お互いの利益が対立しあう中でも、自国の権益を守りつつ合意を形作っていくというプロセスが非常に面白いと思い、自分もそういった合意作りに貢献したい。

まさに外交そのもので、こういった調整を行う仕事をまさに行いたい。

答えの见えないものに惹かれる。

（農林水産省の場合）

→祖父が漁師、自分自身も茨城出身でおいしい野菜に愛着があって、第一次産業に興味がある。

輸出は新しい分野で、これから伸びていくところ。輸出のための交渉の話とかを聞いていてもわくわくする。絶対に自分はこれが好きな分野。

【外務省の志望動機】（タイトルは、説明の都合上つけただけで、提出版では省いています）

（志望動機を簡潔に）

私は、「外交」を通じて日本の発展に貢献したいと考えている。

（国家公務員になりたいと思ったきっかけ）

他国の船が日本の領海に侵入するニュースを見たり、以前は海外で使われていた日本の製品が別の国の製品に置き換えられている話を聞く機会があり、日本の国際的地位の低下を痛感してきた。日本の国際的地位の低下に伴い、日本全体で日本に成長可能性が少ないという閉塞感が広がっていることを感じたため、その閉塞感を打破できる仕事に就きたいと思った。

（外務省への思いを強めたきっかけ）

また、大学で国際法の模擬裁判大会に出場したことをきっかけに国際法については外交の面白さに気づいた。国際法は、国同士の権益が対立しあう中で合意を作っていくがゆえに、国家間の政治的関係や文化の影響を受けながら形作られている。国際法をきっかけに、混沌とした状況下においても対話をする中で相手の真意を見極め、納得できる合意点に到達させていく仕事に関心を持った。

（外務省の仕事をしっかり理解した上で、外務省を志望しているアピール）

さらに、外務省でのインターン経験を通し、バランスをとりながら国としての立場を示す重要性を痛感し、外交に関わりたいたいと強く考えるようになった。

（簡潔な志望動機をより具体的な言葉で言い換え）

先進国の立場にありながら先進国以外の国とも友好関係を築いている日本の立場を活かし、対立する国の懸け橋としての役割を日本が果たすことで、日本の新しい成長可能性を見出し、外務省で日本の発展に貢献したい。

実際の人事面接で深掘された部分は、インターン経験でした！

なので個人的には「外務省の仕事をしっかり理解した上で、外務省を志望している」ことがポイントなのかと思います！

【農林水産省の志望動機】

①なぜ国家公務員か

日本の成長可能性が低いという閉塞感を感じており、閉塞感を打破する仕事に就きたいからだ。海外で使用されていた日本製品が他国の製品に置き換えられていた経験を通し、私自身も日本の低迷を実感した。人口減少という日本の社会課題を解決すると共に、日本の新たな成長可能性を示すことで、日本の発展に貢献したい。

②なぜ農林水産省か

農業の発展を通し、地方の人口増加という日本の課題解決に貢献したいからだ。

私は〇県〇市出身で、小さい頃から食べてきた美味しい野菜の味に愛着を持っており、農業を衰退させてはいけないと強く感じるようになった。また、人口増加を成功させた〇市と周辺都市を比べる中で、地方の一部分のみを発展させるのではなく地方全体の人口を増やすべきであることや農業を発展させる必要性を強く感じた。農業を発展させるためには、若者や法人等の参入が不可欠である。農作物の輸出に必要な環境を整備して農業を稼げるビジネスにすると共に、法整備を進めることで、新しい人々が農業に参入しやすい環境を整備したい。そして地方の人口増加を促し日本の発展に貢献したい。

実際の人事面接では、「どういう社会を実現したいか」について特に深堀されました。面接官の方の年次があがっていくにつれて、より抽象的にどんな日本を作っていくべきなのかという部分を聞かれた印象です。どこかから借りてきた表現でなく、自分の言葉で自分の思いをしっかりと伝えることを求めている気がします。

吉田の場合

【志望動機】

私が外務省を志望する理由は、国と国との関係を維持・発展させることを通じて、国民の大切な家族や暮らしを守り、国民が「生まれてよかった」と思える日本を次の時代へつなぐためである¹。この想いの契機は、中学時代に取り組んだ劇で、私が蝦夷の頭領・アテルイ役を演じた経験にある²。朝廷軍という外部要因によって、家族や故郷の平穏がある日突然失われた様子を追体験したことで、「家族や生活を守るためには、外部との良好な関係構築が必要不可欠である」と中学生ながらに学んだ。

他者との関係構築を通じて、国の歴史を紡ぐことへの想いは、外交や国際法への興味へと発展した³。大学のゼミでは「自由で開かれた南シナ海」⁴をテーマに、法の支配と開発協力を掛け合わせた政策を立案し、G7サミット事務局長・北川様へプレゼンを行った。日本の安定が国際秩序の安定と密接不可分であることを強く意識する⁵反面、中国への実効性担保やアセアンの団結がいかに困難であるかを痛感した。サークル活動では、国際法模擬裁判(弁論)へ取り組んだ。外務大臣賞⁶をいただいた経験からは、言葉で他者を納得させる力への自信⁷を得た。

私の強みは、「理想への情熱」と「現実と向き合う冷静さ」である⁸。これまでの人生で培った全ての力⁹を総動員して、業務へ取り組みたい。またそうした活動の積み重ねによって、国際秩序の安定と国内社会の平穏へ貢献し、日本を次の時代へと繋いでいきたい。

以上の理由から、私は日本の外交官として、生涯を捧げる覚悟¹⁰でいる。

ポイント

①志望理由(第一段落)、ガクチカ(第二段落)、パーソナリティ(第三段落)などの段落構成。順番はとにかく、情報にまとまりをもたせることは大切と思う。

②それぞれのワードの深堀対策。イメージとしては、自分の頭の中にその単語の引き出しが入っていて、聞かれたときはその引き出しをあけて応えるイメージ。脚注でやってることと同じだね。なんとなくでそれっぽい言葉選びをしていないかをチェックされてると思ったほうがいい。

③文体、ワードセンス(例:単に「バランス感覚」ではなく、「理想への情熱と現実をみる冷静さ」など)からキャラが見えるようにする。先輩からは「自信満々すぎてムカつく」とのフィードバックをいただきました。最高！

④一貫性を意識する。志望動機(国と国をつなぎ、時代を紡ぐ)、原体験(朝廷と蝦夷の戦い、時代を紡ぐ)、ガクチカ・関心分野(国際法弁論＝国と国との交渉、政策立案＝日本と世界とのつながり、外交「観」を養う)など。

【経済産業省】

私が経済産業省を志望する理由は、国と国との関係を維持・発展させることを通じて、国民の大切な家族や暮

¹ 志望動機を一言でまとめる。「維持・発展」、「守る」、「生まれてよかったと思える日本」など、使っているワード1つ1つにどんな意味を込めているのか聞かれたとき、自分なりの考えでよいのでパッと答えられるように。また「他の人全員がそう思ってるわけではないと思うけど」という謙虚さも忘れずに。

² 原体験:志望動機のレベルでは何人もの学生が同じことを言えるので、できれば原体験(＝なぜその志望理由に至ったのか)も併わせて書けると「説得力」+「オリジナリティ」のアップにつながる。

³ ガクチカ:ガクチカあるあるの「なぜそれに取り組もうと思ったの?」を原体験から繋げることで自然にカバー。外務省に寄せたアピールではなく、自然と興味をもった先で辿り着いた感が大切と思う。

⁴ 興味分野の深堀対策も忘れずに。現状に対する「外務省」と「自分」の認識をそれぞれ用意しておく。同じでもいい。見解は違っててもいいけど、外務省との見解と「全く」違うことを言うとか「わかってない人」認定される可能性がある。

⁵ つまりどういうこと?と深堀された時の対応も考えておく

⁶ 「先に私を選んだのはそちらです」感を少しだけちらつかせていく。

⁷ こういうこと書いて本番「何を言っても納得してくれない」面接官と戦うことになりました(涙)

⁸ つまり「バランスの取れた人間」。それを「外交官」に求められる人間像、求められる能力のイメージに落とし込む

⁹ 自分の場合はスポーツ(インターハイ出場経験)や国際法弁論(全国優勝経験)などを通じて、自分の限界や挫折、組織との向き合い方、本番での勝負勘やコンディションの高め方など、勉強以外の面でも培ってきた力が、今の自分を支えている。

¹⁰ こういう言葉で証明できないふわとした概念を入れてしまうと本番すごい詰められる。

らしを守り、国民が「生まれてよかった」と思える日本を次の時代へつなぐためである¹¹。この想いの契機は、中学時代に取り組んだ劇で、私が蝦夷の頭領・アテルイ役を演じた経験にある。朝廷軍という外部要因によって、家族や故郷の平穏がある日突然失われた様子を追体験したことで、「家族や生活を守るためには、外部との良好な関係構築が必要不可欠である」と学んだ。

分野として「経済」を選ぶ理由は、国民の生活の安定に密接にかかわっている分野であることに加え、物理的な防衛だけでなく、バイ・マルチの経済関係を密接化することにより、政治的紛争のエスカレートを食い止める力がある。そうした、経済を通じた「平時の守り」こそが現代の日本を支えていると私は考える¹²。

また、「守り」の側面¹³だけでなく、大学の国際法ゼミや外務省経済局¹⁴でのインターンを通じて、経済には「攻め」の姿勢があることにも興味をもった。国際法の知識を活かし、経済連携協定・投資協定交渉の最前線で、日本企業が海外でより自由に、より安全に事業を展開し日本の経済力増進につながるような環境の整備に積極的に取り組んでいきたい。

これらの役割を通じて国民の生活を守り、日本を支えていきたい。

¹¹ 外務省と同じ志望動機。経産省だから経産省風に寄せていったわけではなく、「どこの省庁に行っても俺の興味はここにある」ことを自信をもって伝えていた。

¹² 経済の意義を自分なりに語るのがよい

¹³ 新たな守り「経済安全保障」の文脈でも語る機会が多かった

¹⁴ はじめは他省庁のこと言わない方がいいかなとも思ったけど、外務省と併願している旨やどちらの省庁にいてもやりたいことは経済外交で共通してる旨を採用担当に共有していたので、むしろこちらのほうが自然かと思って構わず入れました。性格出るね

【専門区分】LAの勉強スケジュール(2月～4月)

法律区分: 曾山

時期	基礎能力	専門択一				専門記述		
	数処	憲法	民法	行政法	選択	憲法	民法	行政法
2月1週	判断推理×1、資料解釈×1を週に2回ほど。	できるだけ毎日、30分~1時間テキスト復習	毎日テキストで一単元を復習、できれば演習も(あんまりやらない)	できるだけ毎日、1時間ほどテキスト復習、行政組織法演習	刑法・労働法・財政学を毎日各1時間ずつ勉強(講義見たり演習したり)	なし		
2月2週								
2月3週								
2月4週		なし	なし	なし	なし	過去問(R4~2)、答練④	過去問(R3)、答練⑤	過去問(R3~2)
反省点	・特になし。 ・2/17が第2回択一模試だったので、それに備えて1~3週は択一の勉強を中心に行っていました。 ・2月最終週は、記述メインで、合間の時間で模試直しや省庁研究を行っていました。							
3月1週	ほぼなし	R3過去問	テキスト、問題集、R3過去問	問題集	なし	なし	論証集暗記	答練①②
3月2週	R4過去問	テキスト、R2過去問	テキスト、R2過去問	テキスト、R2過去問	労働法講義	なし	答練⑥	なし
3月3週	R3~2過去問、時事講義	テキスト、R元・H30過去問	問題集、テキスト、R元・H30過去問	問題集、テキスト、R元・H30過去問	暗記	なし		
3月4週	地理	テキスト、問題集、まとめ講義、H29過去問	問題集、まとめ講義、H29過去問	問題集、テキスト、H29過去問	暗記			
反省点	・反省点は、選択科目に自信がなさ過ぎて血迷った挙句、謎に国際法や商法を数時間勉強してしまったことです(黒歴史)。絞った科目を固めましょう。 ・3/10が論文模試だったので、お話し感覚で受けに行きました。とりあえず答案を字で埋めたことは覚えています。 ・択一对策がメインです。							
4月1週	H30過去問、時事	問題集残り	テキスト復習、問題集	行訴法・不服審査法確認、問題集(ミス)、テキスト	刑法、労働法暗記	なし		
4月2週	金曜公開のコ○ンの映画が楽しみすぎてほぼ何もせず。立法府の面接準備や答練の直しをゆるゆると。							
4月3週	なし					答練直し		
4月4週						テキスト復習、過去問		
反省点	反省点は、4/9の試験のあと論文対策があまりできなかったことです…。併願先の面接や試験が立て込んでいたのは仕方ないですが、一次が終わって気が抜けていた部分も大きかったです。 一次が終わり数日休んだら、すぐに二次対策に切り替えましょう。民間併願や公務員併願も忙しい時期ですが、本命を忘れないようにしましょう！							

経済区分:北

この時期はアルバイト等はやってなくて説明会以外の時間は勉強(ほぼ問題集)に全振りしてました。
(たまに息抜きに友達と温泉やご飯に行っていた。)

時期	基礎能力	専門択一	専門記述
2月第1週	たまに文章理解をやる。二日に一回程度数的処理の問題集を解く。	財政学と経済原論の問題集をひたすら解く	なし
2月第2週			
2月第3週		経済原論と統計学・計量経済学の問題集をひたすら解く	
2月第4週			
備考	特になし。	時間がなかったのでこの時期、講義は統計学・計量経済学しかみてなかった。ただひたすらに問題集を解く日々。(一日少なくとも八時間くらいはやっていた)	理想では答練を出しておくべき。

時期	基礎能力	専門択一	専門記述
3月第1週	たまに文章理解をやる。二日に一回程度数的処理の問題集を解く。	国際経済学の問題集をひたすら解く	なし
3月第2週		憲法と経営学をメインにひたすらといて、経済原論の復習を行う。	
3月第3週			
3月第4週	数的処理で点数をとる場所、捨てる場所をしっかりと練っていた。	経済史・経済事情を中心に学び今までやってきたところでよく間違えていたところをおさらいした。	
反省点	なし		

時期	基礎能力	専門択一	専門記述
4月第1週 (週末が1次試験)	試験直前に 数的処理と 時事問題の おさらい。	経済史・経済事情を中心に問題集を周回し、今まで やってきたところでよく間違えていたところをおさらいし た。	なし
4月第2週		なし	試験後から講義の視聴 及び問題集をひたすら 解いていた。 あとは再現答案の読み 込み。
4月第3週			
4月第4週	カンピロバクターにかかり腹痛と高熱で何も手につかなくなり絶望。		
反省点	人事院の面接カードの完成を早めにやっておけばよかった。 模擬面接の申し込みもお早めに。 体調管理も徹底しよう！		

政治国際区分: 高崎

時期	試験勉強	官庁訪問対策	アルバイト・民間就活
2月第1週	<u>①文章理解・数的処理</u> 12月の基礎能力模試・1月の模試の結果を踏まえ、文章理解は英語の並べ替え問題のレジュメを読み過去問を週に1問程度解く。数的推理は、資料解釈を1週間に2問程度解く。(時間配分は固めていました) <u>②知識問題</u> 何もしない <u>③専門択一</u> 政治学・国際関係の模試の復習・過去問演習を開始する。過去問を解くときは、先月のレジュメに書いたような演習の仕方をする。(気になる方はぜひ聞いてください!!) 憲法・国際法の過去問の解答を読み始める <u>④専門記述</u> 何もしない	<u>①外務省</u> 政策シュミレーションに参加(オンラインで参加したのですが、対面で参加したらよかったなあと思いました。) <u>②農林水産省</u> 特になし	<u>①アルバイト</u> 週に1回(アルバイトデーにして、10時間ぐらい働いてました。) <u>②民間就活</u> 民間の説明会や面接等に9回参加していた。1回1時間～2時間ぐらい。(面接が1回あって、そのES等のために4時間程度準備した記憶があります。) コンサル対策に時間をかけてしまいましたが無駄な時間でした... 他は、面接対策が官庁訪問対策にも生きていたと感ずるのでOKです！
2月第2週			
2月第3週			
2月第4週			
反省点	かなり時間をかけて頑張りました。 政治学・国際関係に全振りしたので、そこがよかったかなと思います。あんまり反省点はありません。	外務省の業務理解に謎の自信を持っていてあまり説明会にも参加していませんでした。 せめて中国回などには参加すべきだったなと思います。	

時期	試験勉強	官庁訪問対策	アルバイト・民間就活
3月	<u>①基礎能力試験</u> 文章理解・数的処理が安定して高得点をとれたので、ほぼ何もしない。 <u>②知識問題</u> 時事問題のみ直前に頑張る。時事系の授業動画を寝ながら流してなんとなく聞き覚えのある知識を増やしていた。 <u>③専門択一</u> 2月と同じ <u>④専門記述</u> 記述模試の結果がまあまあだったので、1次試験まではこのまま知識をいれることに集中すると決める。 採点のために、数回は答案を書いたかもしれない(あんまり覚えてないですすいません)	<u>①外務省</u> なし <u>②農林水産省</u> 説明会1回 TACの担任カウンセリングの中で、志望動機について壁打ちを2回ぐらいした。	<u>①アルバイト</u> 月1で8時間だけ働いた <u>②民間就活</u> 説明会や面接等に13回参加していた。1回1時間～2時間ぐらい。 また、ESも10社ぐらい出して、面接は、4回受けていた。(いいなあと思った企業だけでなく、GDや面接練習用の企業もそれぞれ1つずつ受けていました。) コンサル対策に時間をかけてしまいましたが無駄な時間でした... 他は、面接対策が官庁訪問対策にも生きていたと感ずるのでOKです！

反省点	勉強は頑張りました。 官庁訪問対策はもっとしておくべきだったなと思います。 外務省の職員訪問の紹介を受けたのですが、忙しかったのとモチベが下がっていて(だめですね...)断ってしまっていたので、ちゃんと参加しましょう。	民間就活に時間をかけすぎました。ぴえん
-----	---	---------------------

時期	試験勉強	官庁訪問対策	アルバイト・民間就活
4月第1週	専門択一については、2・3月と同じ。 基礎能力試験については、直前期に資料解釈の復習と時事の勉強をしていた。	①外務省 人事の方との個別面談1回 ②農林水産省 座談会1回、職員訪問1回(職員訪問と同時に人事の方にも面談していただいた)	①アルバイト 1次試験直後に、2日間バイトしました！ ②民間就活 いいなあと思っていた企業の選考として、2日間インターン1回・面接3回受けました。他にも面接等を2回受けてました！
4月第2週	政策論文対策ゼミ(答練のようなもの)に2回参加した。		
4月第3週	担任カウンセリングも2度利用し、人物模擬対策も1回行った。		
4月第4週			
反省点	政策論文対策ゼミで、自分の答案を添削してもらい、それがとても良かったです！ 答練の段階で答案を提出すべきだったと思いました。	自分には外務省は無理なんじゃないかと諦めてたところです ... もっと積極的に自分からアクションをとるべきだったなと思います。	反省点はなしです！！

政治国際区分: 吉田

時期	基礎能力	専門択一	専門記述
2月第1週	数的処理: 判断推理・資料解釈に絞って対策。1.5h/日で大体5~8問を目安に解いていく。問題の正誤+感覚を鈍らせないことも意識する。 文章理解: 苦手意識のあった日本語の並び替え問題を問題集で練習 人文科学: 日本史, 世界史, 西洋東洋思想の復習。	【講義】 行政学の受講開始 財政学の受講開始 【演習】 政治学・国際関係の問題集 (政治学は冊子が分厚く一周やりきれなかった) 【復習】 問題演習を通じてみつけた苦手や知識の定着が甘い分野の講義を受け直すなどする (各国政治制度など)	なし。専門記述は1次試験終了後に勉強開始。
2月第2週			
2月第3週			
2月第4週			
良かった点	数的処理の苦手分野を捨てたこと。専門択一での得点、合格点獲得の目途が「なんとなく」たったことで、専門択一对策に集中することができた。勉強の合間に、民間の説明会や面白そうな企業にエントリーしてみて、面接練習や自己分析・ガクチカのブラッシュアップにも取り組めた。		
反省点	朝の4~7時に寝て15~17時に起きて勉強するみたいな生活はよくなかった。非常に。		

時期	基礎能力	専門択一	専門記述
3月第1週	1月,2月の内容に加え、 これまでの模試直し	【演習】 国際関係: 1回目の演習完 (その後まちがえた問題のみを 2~4周する) 国際法・憲法・行政学 : 1回目の演習完(その後は国 際関係と同じく間違えた問題だ け2~4周する) 【復習】 問題演習を通じてみつけた 苦手や知識の定着が甘い分野 の講義を受け直すなどする (選挙制度、行政学理論)	2月の内容に加え、 行政学にもトライ (保険科目として使う)
3月第2週			
3月第3週			
3月第4週			
良かった点	1月,2月の内容に加え、 これまでの模試直し		
反省点	朝の4~7時に寝て15~17時に起きて勉強するみたいな生活はよくな かった。		

【アンケートでいただいた質問】

Q. 学業と試験勉強の両立はどのようにしていましたか

A. 時期によって優先順位を変えるのがいいと思います。やっぱり単位は必要なので、大学のテスト期間はテストに時間を割く、またゼミ等で忙しい時にはそこに時間を割くなど、バランスを考えましょう。また、単位を取るために必要な勉強量を把握して、計画をたてながら効率よくこなすのがおすすめです。

Q. OB・OG訪問の回数はどうすればいいでしょうか

A. 回数というよりは、省庁に関する自分の疑問が解決できていることが大事だと思います。各省庁で実施しているものは重要な場合もあるので、政策研究などを通じて出てきた疑問などを積極的に聞いてみましょう。気になることがあれば、人事の方に自分から問い合わせしてみるのもGoodです！

Q. 職員訪問の準備はどんなことをしていましたか

A. まずは、自分の聞きたい分野や政策を伝えましょう。省庁によりますが、当該分野の職員さんをマッチングしてくれます。次に、逆質問リストを作成しましょう。なぜその分野に関心を抱いているのか、政策の疑問点・課題点、実現してみたい政策や自分の考えなどをまとめていました。事前に質問リストを作成することで、緊張せずに臨むことができます。プラスαで、入省して最もやりがいを感じたこと、職員の雰囲気、仕事の軸などを聞いても良いと思います。政策を動かしている職員さんの生の声を聞ける機会はとても貴重です。せっかくの機会を無駄にしないように、事前準備は入念に！

Q. 暗記方法のコツを教えてください

A. 暗記のコツは背景知識と合わせて覚えることです。例えば、法律の問題で判例の判断や判断理由を覚えたいときは、字面でおぼえるのではなく、そのような判断の背景にある考え方を理解できると忘れにくくなります。そのような覚え方をすると、少し角度の違う出題をされたときでも、応用問題に十分対応できるようになるのでおすすめです。

また、単純に知識を覚えたいときは、自分の目(テキスト)と耳(動画)両方を通して知識をインプットすることを心がけていました。

Q. 職員さんとの1対1の面談や面接の場で聞いていたことや意識していたことを教えてください

A. 結論ファーストで話すことで、相手に要点が伝わりやすいです。また、短く話すことで相手に聞きしろが残り、より会話が弾みやすいのではないかと思います！

Q. 官庁訪問に向けてやるべきことはありますか。

今の時期でしたら、一番優先すべきは勉強だと思います。そのうえで、官庁訪問対策として、自分がどのような社会を実現したいか、なぜ志望省庁でその社会を実現したいか等を考えて壁打ちをしておく、二次試験後に余裕をもてるかと思います！

Q. 一人暮らしと受験勉強の両立について知りたいです！

一人暮らしの場合は掃除・洗濯やお料理といった家事を自分ひとりでおこなうのが大変かと思いますが、逆に言うと、少しの間は自分のペースで「おさぼり」できるのも一人暮らしの良さでもあります。試験直前期は最低限の家事をおこなったり、勉強の合間に掃除をしてリフレッシュするなど、一人暮らしをポジティブに捉えてみると良いかもしれません！

【今後の告知】

★LAカウンセリング★

内定者アドバイザー(LA)が、皆さまのご希望に合わせてカウンセリングを行います！
学習相談、官庁訪問対策、息抜きなど、利用目的は何でもOK！



北圭佑

- #経済区分/デジタル庁・人事院
- #単願の鬼
- #志望官庁迷走の経験
- #勉強してない汗って人も相談大歓迎



高崎萌寧

- #政治国際/外務省/農水省
- #初学・短期決戦型
- #民間(シンクタンク)併願
- #元法曹志望



吉田統磨

- #政治国際/①外務省②経産省
- #言語化の鬼
- #専門択一8割の勉強法
- #面接対策ガチ勢

在席日一覧は
コチラ





高田萌奈

- #教養区分/農林水産省
- #人文系学部
- #就活中にイタリア渡航
- #省庁イベント活用のコツ



曽山稔理

- #法律区分/内閣府
- #公務員併願(法律)
- #話下手の官庁訪問の乗り越え方

予約はコチラ



★お一人何回でもご利用いただけます！試験や面接、官庁訪問や志望動機についてなど、なんでもご相談ください。★



★3月ホームルーム最終回★

第6回HR 最終回

『国家総合職合格への道～？？？～』

3/21(木)16:30～17:30 新宿校

3/26(火)18:30～19:30 オンライン

アンケートのご回答をお願いします！

